



平成20年9月29日
内閣府
原子力政策担当室

**松田岩夫参院議員(元・内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当))
第52回国際原子力機関(IAEA)総会出席の結果について**

9月29日、松田岩夫参院議員(元・内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当))は、第52回国際原子力機関(IAEA)総会に出席し、日本政府代表として演説を行った。概要は以下のとおり。

1. IAEA総会の概要

開催期間：9月29日～10月4日

開催地：IAEA本部(オーストリア・ウィーン)

加盟国数：145カ国(平成20年9月現在)

主要議題：各国からの原子力政策全般に関わる演説、保障措置制度の強化と効率化、北朝鮮の保障措置問題 等

2. 日本政府代表演説の要旨(演説日時：現地時間 9/29(月) 15:20～)

○IAEAにおける我が国の役割と貢献

- ・我が国は原子力の平和的利用のモデル国として、IAEAに積極的に貢献。
- ・次期IAEA事務局長選挙には、天野之弥ウィーン代表部大使を擁立。

○原子力の平和利用

- ・原子力発電は、エネルギー安定供給と地球温暖化対策に貢献する有効な手段の一つ。
- ・原子力発電を適切に導入・拡大するためには、核不拡散/保障措置(Safeguards)、原子力安全(Safety)及び核セキュリティ(Security)の「3つのS」の確保が必要であり、IAEAの役割が一層重要。
- ・我が国は「3Sに立脚した原子力エネルギー基盤整備に関する国際イニシアティブ」を提唱し、本年7月の洞爺湖サミットにおいて同イニシアティブを立ち上げ。
- ・原子力発電導入国への支援を拡大。3Sの整備、人材育成、法令整備等を支援するため、今年度よりIAEAへの特別拠出を開始。
- ・地球温暖化対策への取組み強化の観点から、原子力発電をクリーン開発メカニズム(CDM)の対象とすることを検討すべき。
- ・新たな原子力技術・制度の開発に貢献するため、GNEP(国際原子力エネルギーパートナーシップ)等の国際的な枠組みにも積極的に参画。
- ・核燃料供給保証構想について、我が国の提案は核燃料市場の透明性に資し、IAEA加盟国にとって有益。

○技術協力

- ・ 我が国は、I A E A 技術協力を重視し、医療、工業等の放射線利用の分野において技術的・人的貢献を実施。
- ・ R C A（アジア・太平洋原子力地域協力協定）の締約国として、原子力科学技術に関する共同研究等に貢献。
- ・ F N C A（アジア原子力協力フォーラム）を通じてアジア地域における原子力の平和的利用の拡大に尽力。

○核不拡散体制の強化

- ・ 唯一の被爆国として、粘り強く世界に核廃絶を訴えていく決意。
- ・ 我が国が豪州と共同で立ち上げた「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会」が始動。2010年の核不拡散条約（NPT）運用検討会議が大きな成果を生み出すことを強く期待。
- ・ 我が国は、原子力の平和的利用の透明性確保を徹底し、国際社会からの高い信頼を得て、既に統合保障措置に移行。追加議定書の普遍化は、I A E A 保障措置強化のために最も現実的かつ効果的な方途。
- ・ リビア、インド、北朝鮮、イランについて、最近の動きを踏まえた我が国の基本的考え方を表明。

○原子力安全及び核セキュリティ

- ・ 原子力の平和的利用を推進するためには、安全確保が大前提。
- ・ 新潟中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所への影響については、厳格な確認を実施中。原発の耐震安全性の経験を共有するため、国際耐震安全センターを積極的に支援。
- ・ 放射性物質の安全な輸送を実施。輸送国と沿岸国との対話も積極的に継続。
- ・ アジア地域の核セキュリティ向上の支援を実施。I A E A の核セキュリティに関するガイドライン策定作業にも積極的に参加。

（問い合わせ先）

内閣府原子力政策担当室 担当：牧、川端、佐藤

TEL：03-3581-6688 FAX：03-3581-9828

原子力委員会のHPアドレスはこちら → <http://www.aec.go.jp/>